



哲
學
研
究

第二十五卷
昭和十五年



哲學研究 第二十五卷 總目次

文化の本質と教育の本質……………(一) 月 八九一—一〇二六) ……木村素衛

有と知……………(二) 月 八〇九—一〇一六) ……山田次郎

離接的全體—九鬼教授著「人間と質存」讀後……………(一) 月 六二一—七三三) ……下程勇吉

岡崎義惠著「日本文藝の様式」……………(一) 月 七三一—七九) ……河本敦夫

高坂正顯著「カント解釋の問題」……………(一) 月 八〇—八五) ……淡野安太郎

禪の構造と鎌倉武士……………(二) 月 一〇七—一二三) ……坂田吉雄

數學論序説……………(二) 月 一七一—一八〇) 未完) ……近藤洋逸

稻富氏の著書「無と直観」……………(二) 月 一八一—一八六) ……鹿野治助

中觀瑜伽論譯の歴史的意義に就いて……………(三) 月 一八九—二二二) ……山口益

プロメテウス……………(三) 月 二二—二六五) ……長尾久敬



自我、他我、人間界の認識—その經驗的基礎の討究—	（三）	二月二六—二八	岡不二太郎
瞬間と反復	（四）	三月五—八	三三七
先驗論理の現實的根據について（承前）	（五）	三月二七—三二	谷山隆夫
マイネツケ「歴史的感覺と歴史の意味」	（五）	三月七—九	四二〇
無の本質の實證的研究—山口諭助著「空と辯證法」を読む—	（五）	三月九—四二〇	完
アリストテレスに於ける人間存在と道德的行爲	（六）	三月四—五	四四九
三願轉入に就いて（承前）	（六）	三月四—六	四六七
行爲的基體	（六）	三月四—五	四七五
悲劇と人間存在	（七）	三月五—七	四八三
務臺理著作「表現と論理」	（七）	三月五—七	四九三
正しき宗教哲學への道—波多野先生著「宗教哲學序論」 を讀みて—	（八）	三月六—七	五〇三
人種、民族、國民と歴史的世界	（九）	三月六—七	五〇三
教育の主體	（九）	三月七—八	五〇三
永遠・歴史・行爲	（十）	三月八—九	五〇三
	（十一）	三月九—一〇	五〇三
	（十二）	三月一〇—一六	五〇三

前田博

高山岩男

片山正直

谷山隆夫

大島康正

柳田謙十郎

武内義範

島芳夫

武内義範

堀喜望

高山岩男

谷山隆夫

大島康正

柳田謙十郎

武内義範

島芳夫

武内義範

自由に就いて	……………	(十一月九三—九五二)	岸 畑 殖 夫
世界の秩序形式と人間の存在形式	……………	(十一月九五三—九八二)	グラーフ・フオン・ デュルクハイム
シエリングの歴史的必然とハイデッ	……………	(十二月一〇—一〇四二)	大 西 友 太
ガー・ヤスバースの歴史的人間	……………		